

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390201782		
法人名	(株)KUNPUケア グループホームみどりの家本荘		
事業所名	グループホームみどりの家本荘 (Aユニット)		
所在地	岡山県倉敷市児島塩生405-11		
自己評価作成日	令和 4 年 8 月 1 日	評価結果市町村受理日	

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・特に口腔ケアに力を入れ徹底している。毎食前の嚥下体操や毎食後の歯磨き・本来は週一の歯科往診にて予防と治療をし、口腔ケアの効果実現に向けている。  
・ADL、IADL、CADL、ASC等、現在のレベルに合った個々のプランでの対応に向け「出来る事」を見つける事から始め「出来る」や「している」に向けている。いわゆる「出来る事はしてもらい、出来ない事のお手伝いを職員がする」とし、入居者の状態把握と対応の介護をしている。  
・入居者個々のニーズに合わせて個別外出の回数を増やし気分転換やストレス解消に向けている。  
・入居者の方々が「ここに来て良かった」や「ありがとう」と思ったり、言ってもらえるような施設であるようにと日々の介護に向け、入居者優先の介護に取り組んでいる。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=339020610-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=339020610-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(有)アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井2丁目2-18
訪問調査日	令和 4 年 9 月 30 日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者に個別のニーズを確認し、コロナ禍でもストレスが発散できるように、日常からできることをして頂いている。リハビリを兼ねたハウス内散歩や新聞を取りに行ったりして新鮮な空気を吸ったり、外の気温の寒暖の確認もしたりして健康に留意している。特に、食に力を入れ、大イベントとして、屋台をリビングで催した際も利用者のできる範囲の協力、手伝いで盛り上がった。利用者が歌手となり紅白歌合戦で競い合い、気合が入った姿も垣間見れたそう。利用者がゆっくりと過ごして頂き、「ありがとう」と思って笑顔を以って言って頂けたことが、涙が出るくらい嬉しく職員の糧になったことから、常に外出の代わりに個々のできることを見極め、新しいやりがいを職員一同で模索している。レベルを下げない工夫として、間違え探し、算数ドリル、線つなぎ、ことわざのカルタや貼り絵、塗り絵など職員の取り組みが素晴らしい。圧巻は、利用者の居室の清掃は各自が行い、働き甲斐の促しとなっていて、常に職員が試案行動して、利用者の自立に貢献している施設であった。

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている	ユニット内に貼付し、管理者より理念を把握し覚え介護に活かしていくように言われている。	事務所と職員が必ず立ち寄り、各ユニットのキッチンに掲示している。理念にある【主体性・可能性の重視や生活の継続性】を実現できるように支援し、より良い生活ができるよう取り組んでいる。	コロナ終焉後に向けて、経営理念を玄関に掲示してみたいか？
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事(小学校の運動会・秋祭り・お餅つき等)に参加して交流をもっていたが、コロナの為、参加出来ていない。	町内会には加入していて、管理者は日頃から地域の方と挨拶を交わしている。自治会長と連携し、スズメバチの巣や雑草の除去をしたこともあった。また、地域の方から野菜を頂くこともある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者が地域の研修に参加したり、職員も電話での質疑応答等の対応をしている。コロナの為、研修の受け入れや見学者対応の制限がある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの為、開催が難しいので中止となっていたが、管理者が施設内の状況を記し、推進員に郵送して状態等を伝えている。尚、質問等は随時電話連絡をするよう伝えている。	コロナ前の会議には、自治会長、婦人部、地域包括、家族の方が参加していた。会議の内容や事業所内の様子・状況をまとめた書類を郵送にて報告し、電話にて意見を聴取している。	意見の視野を広げるために、新しい委員を増やしてみたいか？
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナの為、どうしても時以外は、電話連絡にて連携や協力を仰いでいる。	窓口の基本は管理者で、他の介護職員が出向く場合もある。生活保護福祉課とは、何かあれば連絡を取り合い、「いつも助かっています」と言われる関係ができているくらい、市町村との関係は良好。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束廃止委員会」を3か月に一度カンファレンス時に行い話し合いや意見交換等をし、改善に向けている。玄関は随時誰でも入れるような造りになっているが、コロナの為、現在は制限がある。	身体拘束委員会で話し合った意見を、運営推進会議で報告している。スピーチロックにならないように、職員同士が目で確認し合って行動し、必ず説明を入れるように工夫している。職員の意識調査を実施したことの効果が表れている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「身体拘束廃止委員会」を3か月に一度カンファレンス時に行い話し合いや意見交換等をし、改善に向けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者対応となる為、職員は理解出来ていない状況である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が担当し、入所時に説明を分かりやすくし、質疑応答もしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	以前は運営推進会議に参加を促し、家族や地域の方・支援センターの方と和やかに質疑応答をしていたが、コロナの為、現在は来所時や郵便・電話での対応である。運営推進会議録を玄関に設置している。	家族の意見は、面会と電話にて聴取している。月1回、家族へ手紙の郵送が好評で、コロナ禍でも施設の様子がわかるとの意見を頂いた。現在は、窓越し面会を実施している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見は反映出来ている部分がある。	管理者は日々の介護の中で、気づいたことがあれば口頭で伝えている。職員は意見が言いやすいので、管理者のところへ相談が来ることが多い。月1回のカンファレンスにて現状確認をし、把握することで職員間で情報共有ができています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与・労働時間に不満がある職員も一部いるが、基本給を他施設よりUPしており、また、就業規定に則っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在の人員では、外部研修は難しいが、出来る限り勉強に向けるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、近隣にある同業者との交流や運営推進会議での行き来をしてたが、コロナの為、現在は近況報告等の電話連絡のみを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談での聞き取り重視し、生活歴や有望を聞いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人や家族の要望等を聞き、アセスメントやカンファレンス・申し送り簿にて問題の検討や対処に向けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず、本人や家族の意向を聞き、その時々で他サービス利用も踏まえた対応に向けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一部の職員を除いては、入居者と思いを共感しながら協働出来る関係を目指している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	一部の職員を除いて、入居者の様子等を伝え協力関係を目指している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や昔馴染みの方の訪問を受け入れ、関係が継続するようにしていたが、コロナの為、面会が出来ず、窓越し面会をしている。	窓越し面会を実施しているので、家族や馴染みの友人が訪れたこともある。外出時には、利用者の行きつけのお店に行くように配慮している。訪問理美容や担当ドクターが新たな馴染みとなり、何でも話せる関係ができています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一部の職員を除き、入居者同士の関係が上手くいくように職員が調整役となり介護にむけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	管理者が退所後も家族へ連絡をしたり、本人に会い経過を見る等の対応をしている。また、退所後、葬儀参列する事もある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一部の職員を除き、日々の関わりの中でそれぞれの把握に努めるよう努力している。	会話や挨拶から話を始め、利用者の目線に合わせて話題を広げている。日常生活から思いや意向を把握できるように、職員は日々の介護から実践し、利用者に寄り添うことを大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を把握する事は、その方の理解に繋がるが気配りも必要である。しかし、生活の継続性にはなかなか繋がりにくい。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活の中で出来る事をしてもらい、一人ひとりの把握に向けるよう管理者に言われている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族や本人の話を聞き検討し計画を立て、日々の介護記録でモニタリングし、毎月一か月のまとめを送付にて家族に状況報告をしている。	基本は3ヶ月に1度、介護計画の見直しをしている。毎月カンファレンスを実施することで、利用者の現状に則したプランとなっている。チェック表を活用し、職員が実施できたかどうかを可視化することで、常に確認しあえる体制ができています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌にプランを載せて日々の実践に向くよう努力をしている。問題発生時は話し合い対応に向けるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況に応じて、要望・意向を踏まえて取り組めるよう努力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	管理者が、必要に応じて外部のケアマネと連携を図ったり、訪問理美容サービスを実践している。コロナの為現在は、期間をあけての対応にしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医・歯科医・精神科医等の医師と密に連絡を取り、家族との連携も仰ぎながら医療が受けられるようにしている。	かかりつけ医に転医するかどうかは、入居前に相談して決めている。ドクターと連携を取りやすくするため、職員は利用者の状態の把握に努めている。往診は月2回、訪問リハビリと歯科衛生士による歯磨き指導や口腔ケアが月1回行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	正看の訪問看護対応や準看対応をし、母体医師の週2回の往診を受け、体調不良者が出た時には医師の往診や医師への連絡にて指示を受けての対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には情報提供し、事業所内対応可能になれば早期退院に向けてもらうよう、管理者は医師と話をし、家族との連携も取るようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	緊急時に伴う意思確認同意書を作成し、家族に説明して署名・捺印にて保管し、対応に向けている。	ターミナルは実施していないが、事務所と各ユニットに置いてある緊急時対応マニュアルを活用することで、何かある場合に即対応できるように工夫している。入居時と看取り期に差し掛かった場合には、家族にできることと、できないことの説明をし、同意を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会やカンファレンスで話し合い、マニュアル作成にて貼付している。職員の意識付けは完全とはいえない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回、夜間と日中での想定で施行し、その内の1回は消防署立会いとして施行。災害に関しては自治会長より協力体制を取り、双方ともに助け合う話をしている。	年2回昼夜想定で実施。地震訓練の際には、机の下に潜ったり、布団を被ったりして、利用者が真剣に取り組んだことを消防員から賞賛された。備蓄は各ユニットに、乾物は10日程、水は4日程保管している。緊急時には、物資が確実にいき渡るように地域とも相談している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りやプライバシーを損ねるような声かけをしないよう管理者から常に言われている。尊厳ある姿を大切にとも言われており努力をしている。	利用者の自尊心を傷つけないような言葉をかけをしている。排泄失敗時には、失敗というワードは使わずに、何事もなかったかのように「トイレに行こう」とさりげなく誘導し、失敗という気持ちにさせないように工夫している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員側で決めた事を押し付けるような事のないよう本人の意思決定出来る場面を作るように管理者から言われているので努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調に配慮しながら、それぞれのしたい事を把握し提供するように管理者から言われているが、実践は出来ていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみを本人の自己表現とし、職員の感覚や価値観で決めつけてはいけないと管理者より言われている。支援は出来ていない。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者に家事手伝いとして食器拭き等をしてもらったり、食材等の保存下準備等をしてもらっている。	三食すべて手作りで家庭の味を演出している。完食で、「ええわー。私好みの味じゃわー」と利用者に人気が高い。毎年、管理者が作るおせち料理が好評で、利用者は無事に新年を迎えることができている。利用者の嫌いな物は、無理に食べさせない方針で、嗜好調査もしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事摂取量・水分摂取量をチェックし、介護日誌に記載して計算後表に転記している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実践(介助にて)を行い、毎食前の嚥下体操も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	レベル低下があり自立は困難だが、立位や出来る事はしてもらうようにしている。	職員の情報共有や排泄チェック表を活用した結果、排泄機能が向上し、布パンツに変わった人もいる。日中はトイレで排泄して頂き、歩行が困難な方に対しては、夜間のみポータブルトイレを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者全員の排便コントロールを施行し、主治医にも相談しながら服薬等の対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員都合になりがちだが、無理強いはしていない。	基本は週2回の提供。季節に応じた入浴剤を使用し、季節感を味わって頂いている。入浴を拒否される場合は、時間帯や人を変えて対応し、どうしても入らない場合は無理強いはしない方針。入浴の長さも利用者の好みと体調や疾患に考慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中なるべく起きてもらうようにして、夜間帯に良眠出来るように向けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容を把握している職員は一部で理解は難しいが、服薬時は手渡しや口に入れる等の状態に合わせた服薬管理をしている。また、服薬前に必ず職員2人確認での服用としている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの役割や楽しみの場の提供を職員がしなければならぬが、なかなか出来ていない。一部の入居者に偏っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	室内だけで過ごさず外に出る機会を作るよう管理者から言われているが、なかなか出来ていない。コロナの為、現在は稀にはあるが、ドライブ外出のみとなっている。	毎月施設内でイベントを開催した。特に、お正月には紅白歌合戦を開催して、大熱唱で盛大に盛り上がり、利用者のフラストレーションが溜まらないように工夫している。室内歩行を多く取り入れることで、外出支援に代わる取り組みを行った。新聞受けの役割を与え、外気に触れる機会を作っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在の入居者にお金を管理出来る方が殆どおらず、職員管理となっている。月に一度移動パン屋が来て好きなパンを買ってもらうが支払いは職員がしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者が電話したいと言えば、希望に沿うようにしてもらう事もあり、家族等と手紙のやり取りをしている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは天井を高くする事で空間を広く落ち着ける造りにしている。また、天窓もあり、太陽の光が入るようにも造られている。	天井が高く広々としたリビングは居心地が良く、利用者はテレビを観ながら、ティータイムを楽しんでいた。壁面には、毎月の行事の写真が飾られていて、常に季節感を感じることができている。畳の部屋でゆっくりと過ごす利用者もおられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの配置や畳スペースにて少人数の憩いの場を設けているが、畳スペースは活用出来ていない。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は冷暖房完備で、その方が好きなように使ってもらえるようにしている。火気以外の物は自由に持ち込み可としている。	カーテン、エアコン、テレビ台が備え付け。敬老会の感謝状を毎年配布し、壁面に大切に飾っている。できる方には掃除を自分でして頂いている。利用者の状態に合わせて、ベッド・家具を配置し、適切な室温に設定されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下に物を置かないように常に管理者から言われている。		

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
		○	3. 利用者の1/3くらいの			○	3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)		1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない			○	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
		○	3. 利用者の1/3くらいが			○	3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが			○	3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)		1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)		1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
		○	3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390201782		
法人名	(株)KUNPUケア グループホームみどりの家本荘		
事業所名	グループホームみどりの家本荘 (Bユニット)		
所在地	岡山県倉敷市児島塩生405-11		
自己評価作成日	令和 4 年 8 月 1 日	評価結果市町村受理日	

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・特に口腔ケアに力を入れ徹底している。毎食前の嚥下体操や毎食後の歯磨き・本来は週一の歯科往診にて予防と治療をし、口腔ケアの効果実現に向けている。  
 ・ADL、IADL、CADL、ASC等、現在のレベルに合った個々のプランでの対応に向け「出来そう」を見つける事から始め「出来る」や「している」に向けている。いわゆる「出来る事はしてもらい、出来ない事のお手伝いを職員がする」とし、入居者の状態把握と対応の介護をしている。  
 ・入居者個々のニーズに合わせて個別外出の回数を増やし気分転換やストレス解消に向けている。  
 ・入居者の方々が「ここに来て良かった」や「ありがとう」と思ったり、言ってもらえるような施設であるようにと日々の介護に向け、入居者優先の介護に取り組んでいる。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=339020610-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=339020610-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(有)アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井2丁目2-18
訪問調査日	令和 4 年 9 月 30 日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者に個別のニーズを確認し、コロナ禍でもストレスが発散できるように、日常からできることをして頂いている。リハビリを兼ねたハウス内散歩や新聞を取りに行ったりして新鮮な空気を吸ったり、外の気温の寒暖の確認もしたりして健康に留意している。特に、食に力を入れ、大イベントとして、屋台をリビングで催した際も利用者のできる範囲の協力、手伝いで盛り上がった。利用者が歌手となり紅白歌合戦で競い合い、気合が入った姿も垣間見れたそう。利用者がゆっくりと過ごして頂き、「ありがとう」と思って笑顔を以って言って頂けたことが、涙が出るくらい嬉しく職員の糧になったことから、常に外出の代わりに個々のできることを見極め、新しいやりがいを職員一同で模索している。レベルを下げない工夫として、間違え探し、算数ドリル、線つなぎ、ことわざのカルタや貼り絵、塗り絵など職員の取り組みが素晴らしい。圧巻は、利用者の居室の清掃は各自が行い、働き甲斐の促しとなっていて、常に職員が試案行動して、利用者の自立に貢献している施設であった。

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が常に見える場所に掲示し、意識して仕事に取り組めるようにしている。	事務所と職員が必ず立ち寄る、各ユニットのキッチンに掲示している。理念にある【主体性・可能性の重視や生活の継続性】を実現できるように支援し、より良い生活ができるように取り組んでいる。	コロナ終焉後に向けて、経営理念を玄関に掲示してみたいかがでしょうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	推進会議や近隣の小学校のイベントに参加したり、イベント開催時に地域のボランティアによる踊り・演奏会をしてもらい交流を図る機会を設けていたが、現在はコロナの為出来ていない。	町内会には加入していて、管理者は日頃から地域の方と挨拶を交わしている。自治会長と連携し、スズメバチの巣や雑草の除去をしたこともあった。また、地域の方から野菜を頂くこともある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に地域の方からの質問や困っている事柄を出してもらい、それについての話し合いをしていたが、コロナの為、推進会議が出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議にて、現状報告や質問・意見・要望を聞き話し合ったり、問題等の話し合いをしながら、サービス向上に向けていたが、コロナの為、現在は推進委員の方々に状況などを郵便で送って知らせている。	コロナ前の会議には、自治会長、婦人部、地域包括、家族の方が参加していた。会議の内容や事業所内の様子・状況をまとめた書類を郵送にて報告し、電話にて意見を聴取している。	意見の視野を広げるために、新しい委員を増やしてみたいかがでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険更新時等に入居者の状態等を伝え、連携を図るようにしている。	窓口の基本は管理者で、他の介護職員が出向く場合もある。生活保護福祉課とは、何かあれば連絡を取り合い、「いつも助かっています」と言われる関係ができているくらい、市町村との関係は良好。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束廃止委員会」を3ヶ月に一度行い、日頃からユニット会議やカンファの場で拘束について検討し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束委員会で話し合った意見を、運営推進会議で報告している。スピーチロックにならないように、職員同士が目で確認し合って行動し、必ず説明を入れるように工夫している。職員の意識調査を実施したことの効果が表れている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「身体拘束廃止委員会」を3ヶ月に一度行い、ユニット会議・カンファの場で日頃のケアについて話し合い、虐待防止は勿論不適切なケアが行われないよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	話を聞く事はあるが、上手く理解出来ていないと思う。まだ、活用に至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者よりご家族への説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、家族には積極的に話しかけどんなことでも話せたり相談出来る環境作りに努め、要望にはユニット内で検討の話し合いをし、随時対応してきたが、コロナの為、現在は電話での対応が殆どとなっている。	家族の意見は、面会と電話にて聴取している。月1回、家族へ手紙の郵送が好評で、コロナ禍でも施設の様子がわかるとの意見を頂いた。現在は、窓越し面会を実施している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のカンファレンスの場を有効利用したり、ユニット会議で出た意見を主任を通して管理者と話し合いをしている。	管理者は日々の介護の中で、気づいたことがあれば口頭で伝えている。職員は意見が言いやすいので、管理者のところへ相談が来ることが多い。月1回のカンファレンスにて現状確認をし、把握することで職員間で情報共有ができています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者に管理者を通して話を聞いてもらい、改善された事もある。全てとはいかないが、職員の意見が実現される事は意欲の向上に繋がっていく事だと思う。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、職員個々の把握が出来ていない。管理者は研修をと考えているが、コロナの為や職員不足の為、外部研修は困難な状態である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は現状を知らない。管理者が他グループホームへの見学や交流を持てるように推進会議への行き来をしていたが、コロナの為、現在は出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活歴・趣味・嗜好等の状態を把握し、それに基づき職員間で話し合いをし、職員が関わりを持てるようにしておき、受け入れ可能な状態に向けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の意向・要望を理解し、対応策を検討しながら対処に向けている。そうする事により不安を取り除けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	改善に向けての状態・状況に応じた対応をし、信頼関係の構築と共に必要なサービスに向けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	当施設が入居者の家であるという事を理解し、自宅での生活の延長線上であり主体性を活かし介護する側・される側の意識を持たず入居者優先で動く事をユニット会議で話し合い、信頼関係の構築に向けて意識付けをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時の状態報告や一か月のまとめを送付して情報共有に努め、協力が必要な場合は直ぐに相談し家族も含め全員でケアをおこなっていたが、コロナの為、電話連絡となっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス感染症の為、外出・面会等の規制があり行えていないが、家族の葬儀には、特例として外出してもらった事もある。	窓越し面会を実施しているので、家族や馴染みの友人が訪れたこともある。外出時には、利用者の行きつけのお店に行くように配慮している。訪問理美容や担当ドクターが新たな馴染みとなり、何でも話せる関係ができています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	外出時は仲の良い方同士で出掛けていたが、コロナウイルス感染症発生より外出はしていない。職員が間に入りコミュニケーションを図り、入居者同士の信頼関係や馴染みの関係が築けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も様子見に行ったり、ご家族との連絡を取ったり葬儀に参列する等の交流や困った事の相談に乗る事もある。(電話連絡)		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の関わりの中での声かけや会話で意向や真意を把握していき職員全員で共有し、良い介護に向け、意思疎通困難な方には家族からの情報収集や表情を見ながらアプローチの検討をしている。	会話や挨拶から話を始め、利用者の目線に合わせて話題を広げている。日常生活から思いや意向を把握できるように、職員は日々の介護から実践し、利用者へ寄り添うことを大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との関わりの中での把握や家族に今までの本人の生活状態に関する情報収集をし、把握につとめている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各入居者の生活リズム・趣味を把握し、出来る事や興味のある事への取組に向け、本人の状態把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	それぞれの入居者主体の介護計画をカンファレンス・ユニット会議にて話し合いその方に合った計画の作成をしている。	基本は3ヶ月に1度、介護計画の見直しをしている。毎月カンファレンスを実施することで、利用者の現状に則したプランとなっている。チェック表を活用し、職員が実施できたかどうかを可視化することで、常に確認しあえる体制ができています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌に長期・短期目標・サービス内容を記載し、常に計画に基づいたケアがなされているかの確認また、職員の気づきや工夫を記入し職員全員が共有する事になっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態や家族の意向に配慮しながら、必要な時に必要なサービスを臨機応変に提供するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員の参加があり、情報範囲が広がっている。また、地区会長・民生員・婦人会の方々の参加もあり情報提供をもらっているが、現在はコロナの為規制あり。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みのかかりつけ医や希望する医療機関への受診はご家族と相談の上、意向に添っており、協力と連携にて行っている。内科への受診は職員にて同行受診をしている。	かかりつけ医に転医するかどうかは、入居前に相談して決めている。ドクターと連携を取りやすくするため、職員は利用者の状態の把握に努めている。往診は月2回、訪問リハビリと歯科衛生士による歯磨き指導や口腔ケアが月1回行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調や些細な表情の変化等を見逃さないよう異常の早期発見と対応に留意し、異常時に介護職での判断が難しい時には正看護師や准看護師に相談・指示にて対応し、Drへの報告や指示をも仰ぐようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院によるレベル低下を極力防ぐ為に事業所内で対応可能な段階での退院が出来るようアプローチしている。また、入院時には、情報を医療機関に提供し家族共、回復状況等の情報交換しながら早期退院に向けて行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所の体制や事業所が対応しうる介護方法を踏まえて、状態の変化の度に家族に説明をしながら検討している。また、同意書を作成し、署名・捺印を家族に貰っている。	ターミナルは実施していないが、事務所と各ユニットに置いてある緊急時対応マニュアルを活用することで、何かある場合に即対応できるように工夫している。入居時と看取り期に差し掛かった場合には、家族にできることと、できないことの説明をし、同意を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会で話し合い緊急時対応マニュアルを見て対応出来るよう文章化したものを体制している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行っており、日中・夜間想定にて施行している。また、災害時の避難場所を自治会より聞き、協力体制を図り、災害マニュアルも作成している。	年2回昼夜想定で実施。地震訓練の際には、机の下に潜ったり、布団を被ったりして、利用者が真剣に取り組んだことを消防員から賞賛された。備蓄は各ユニットに、乾物は10日程、水は4日程保管している。緊急時には、物資が確実にいき渡るように地域とも相談している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳とは何かを理解した上で対応し、不適切な声かけがあった場合には職員同士で注意し合う環境を作っている。	利用者の自尊心を傷つけないような言葉をかけをしている。排泄失敗時には、失敗というワードは使わずに、何事もなかったかのように「トイレに行こう」とさりげなく誘導し、失敗という気持ちにさせないように工夫している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で入居者自身が決定し過ごす事が出来るような援助に努めている。入居者の意見を常に反映させる事が出来るよう話し合える信頼関係の構築に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り、入居者の動きに合わせて職員が動くようにし、個別性のある介護を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の更衣や入浴時の衣服選びを全て本人に任せ、整容等は入居者の好みや意見を聞きながら希望に添えるよう支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物を入居者から聞き、メニュー表を作成している。食器洗い・盛り付け・食事準備等も入居者と一緒に行っている。コロナの為、外食は出来ないが、お弁当も取り入れて楽しみの提供をしている。	三食すべて手作りで家庭の味を演出している。完食で、「ええわー。私好みの味じゃわー」と利用者に人気が高い。毎年、管理者が作るおせち料理が好評で、利用者は無事に新年を迎えることができています。利用者の嫌いな物は、無理に食べさせない方針で、嗜好調査もしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に1日の食事摂取量・水分摂取量の集計を取り、職員全員がおおよその量の把握をし、少なめの方への対応をしている。また、嗜好に合った食事を提供出来るよう別メニューでの提供も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを徹底している。自力で出来る方は見守りと声かけし、出来ない方は職員が介助している。また、問題のある方は、歯科往診の対応をしているが、コロナの為現在は往診はしていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者個々の排泄パターンの把握を行い、その方に応じた介助・声かけ・見守りを行い、対応時には、羞恥心に対する配慮も行っている。	職員の情報共有や排泄チェック表を活用した結果、排泄機能が向上し、布パンツに変わった人もいます。日中はトイレで排泄して頂き、歩行が困難な方に対しては、夜間のみポータブルトイレを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者全員の排便コントロールを行い、排便チェックをし、必要に応じた水分補給や運動を取り入れている。困難な方の場合、Drへ相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者個々の希望も取り入れ、週2~3回の入浴施行している。時間帯等は当日の入居者に聞きながら希望に添えるよう可能な限り対応している。	基本は週2回の提供。季節に応じた入浴剤を使用し、季節感を味わって頂いている。入浴を拒否される場合は、時間帯や人を変えて対応し、どうしても入らない場合は無理強いはいしない方針。入浴の長さも利用者の好みと体調や疾患に考慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に活性化を図り、夜間帯の良眠に向けての環境整備にも気を配っている。また、日中はその方々の生活状態に合わせ休息してもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者個々の薬情報を作成し、薬変更時は、記載して職員全員が内容把握するようにしている。また、服薬確認も行い、個々手渡しにてきちんと服用出来たかどうかの確認もしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの好きな事や興味のある事を見出し、働きがいの創出に向けている。それにより、楽しみや活気に繋がるようにむけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染症の為、外出規制があり行えていないが、それまでは月一の個別外出の機会を作り、欲求を満たし、気分転換やストレス解消を図れるよう計画し実行していた。	毎月施設内でイベントを開催した。特に、お正月には紅白歌合戦を開催して、大熱唱で盛大に盛り上がり、利用者のフラストレーションが溜まらないように工夫している。室内歩行を多く取り入れることで、外出支援に代わる取り組みを行った。新聞受けの役割を与え、外気に触れる機会を作っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の了承を得て、ご自分で持ちたいという方には、持ってもら方もいる。そうする事により、安心感や満足感の配慮に向けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者からの要望があれば連絡を取っている。また、年賀葉書を家族宛に作成し、毎年投函している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	開放感のある場所になるよう天井を高くして広々としたリビング作りしており、天窓から太陽の光を取り入れる事も工夫の一つである。また、トイレは入浴時に恥ずかしくないよう両面開きにしてのものも工夫の一つである。	天井が高く広々としたリビングは居心地が良く、利用者はテレビを観ながら、ティータイムを楽しんでいた。壁面には、毎月の行事の写真が飾られていて、常に季節感を感じることができている。畳の部屋でゆっくりと過ごす利用者もおられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	少人数での憩いの場として、畳コーナーの設置をしている。また、ソファの置き場所を変えて落ち着けるよう工夫している。他ユニットへも気軽に行ける体制を作り自由に過ごしてもらえるよう全職員で対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使用していた物や大切にしていた物を居室に置く事で、安心感や不安を取り除けるのと家族に話して入所時に持ってきてもらうようにしている。	カーテン、エアコン、テレビ台が備え付け。敬老会の感謝状を毎年配布し、壁面に大切に飾っている。できる方には掃除を自分でして頂いている。利用者の状態に合わせて、ベッド・家具を配置し、適切な室温に設定されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全衛生管理より、カンファ時に申し送りをし、環境整備・入居者のレベルに合った生活環境・危険防止等を職員に徹底を促している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない